

今日は、北九州市門司区の小学六年生、蜂谷しまゆさんの『ふつうってなんだろ』という作文を紹介します。本人の朗読でお聞きください。

『ふつうつてなんだね』

北九州市立白野江小学校六年  
蜂合 こまゆ

私は、なむやす  
夏休みに「ふつうってなんだ?」という本を読みました。  
この本を選んだのは、いつもふつうといつ言葉を使つていたけれど、よく考へるとふつうってなんだらうと思つたからです。  
この本の中で、心に残つたのは、「自分のことを呼ぶときもきゆう屈なときがある」とつゝ言葉です。自分のことを「ボク」と言いたい人に對して、

「女子なのに、ボクって言うなんて変。」

わたし ほん よ  
一相談してくてあります。  
と、言いたいです。

私はこの本を読んで、いろいろな性があることを知りました。だれが「ふつう」の性でだれが「ふつうじゃない」性なのかという区別がないということも分かりました。これは性別だけに限らず、どのような特性にも言えることです。「ふつう」だとか「ふつじやない」という区別を押しつけず、その人らしさや自分らしさを大事にできる世の中にいていきたいと思います。

生まれた時の性別だけでなく、自分の性をどう思っているか、どんな相手を好きになるかなど、たまたまな性のあり方に気づいた作者。

私たちも、「ふつう」「ふつうじゃない」といった区別をせず、ひとりひとりの「その人らしさ」を尊重できるよう心がけたいものですね。

では、また